

6資産バランスファンド(成長型)

愛称：ダブルウイング

追加型投信／内外／資産複合

信託期間：2006年3月14日 から 無期限 基準日：2025年11月28日
決算日：毎年3月6日および9月6日(休業日の場合翌営業日) 回数コード：3060

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

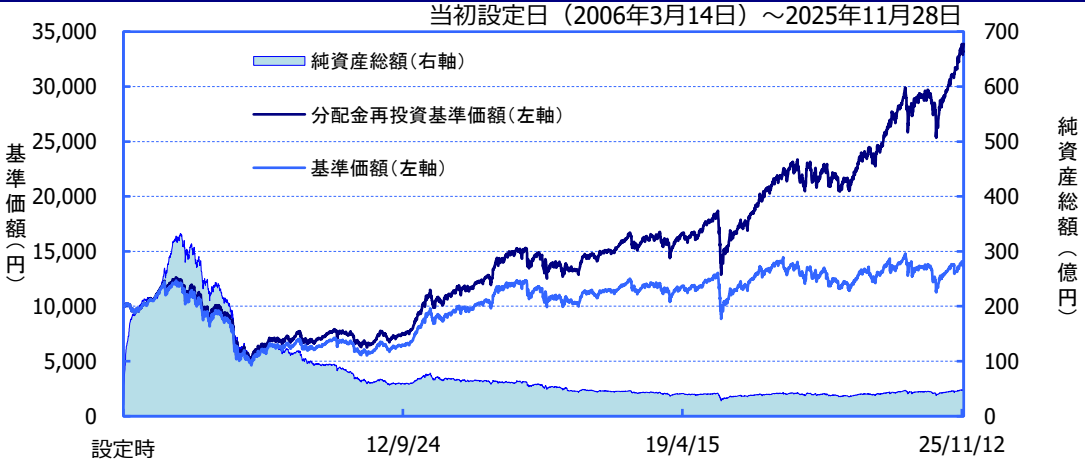
《基準価額・純資産の推移》

2025年11月28日現在

基準価額	14,089 円
純資産総額	48億円

期間別騰落率	
期間	ファンド
1カ月間	+1.1 %
3カ月間	+9.2 %
6カ月間	+18.1 %
1年間	+16.9 %
3年間	+55.1 %
5年間	+84.6 %
年初来	+15.2 %
設定来	+238.9 %

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。
※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。
※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。



《分配の推移》

(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	分配金
第1～27期 合計：	3,460円
第28期 (20/03)	200円
第29期 (20/09)	200円
第30期 (21/03)	600円
第31期 (21/09)	1,000円
第32期 (22/03)	250円
第33期 (22/09)	500円
第34期 (23/03)	200円
第35期 (23/09)	600円
第36期 (24/03)	1,000円
第37期 (24/09)	800円
第38期 (25/03)	600円
第39期 (25/09)	900円
分配金合計額	設定来：10,310円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。
※債券ポートフォリオ特性値は、ファンドの組入債券等の各特性値(直接利回り、最終利回り等)を、その組入比率で加重平均したものです。※先物の建玉がある場合は、資産別構成の比率合計欄を表示していません。

※格付別構成については、当社所定の基準で採用した格付けを基準に算出しています。
※変動要因分解は、簡便法に基づく概算値であり、実際の数値とは異なる場合があります。また、その他要因には、運用管理費用による要因、設定・解約の影響などがあります。小数点以下四捨五入等の関係で各欄の数値の合計が一致しない場合があります。
■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメントにより作成されたものです。当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって投資元本が保証されているものではありません。当ファンドの取得をご希望の場合には最新の投資信託説明書(交付目論見書)を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上ご自身でご判断ください。後述の当資料のお取り扱いにおけるご注意をよくお読みください。

《主要な資産の状況》

※比率は、純資産総額に対するものです。

資産別構成		
資産	銘柄数	比率
外国株式	144	25.2%
国内株式	37	24.7%
外国リート	71	19.5%
国内リート	46	19.3%
国内債券	22	4.5%
外国債券	41	4.5%
国内リート 先物	1	0.3%
コール・ローン、その他		2.3%
合計	362	---
通貨別構成		
通貨	合計100.0%	
日本円	50.1%	
米ドル	34.6%	
ユーロ	4.4%	
豪ドル	4.1%	
英ポンド	2.7%	
シンガポール・ドル	1.2%	
カナダ・ドル	0.9%	
香港ドル	0.8%	
スイス・フラン	0.4%	
その他	0.9%	

債券 ポートフォリオ特性値		
直接利回り(%)	2.4	
最終利回り(%)	2.7	
修正デュレーション	7.5	
残存年数	9.0	
債券 格付別構成		
合計100.0%		
格付別	比率	
AAA	87.3%	
AA	10.5%	
A	2.2%	
BBB	---	
BB	---	
※債券 ポートフォリオ特性値、格付別構成の比率は、債券ポートフォリオ(債券先物を除く)に対するものです。		
《基準価額の月次変動要因分解》		
価格要因	為替要因	合計
海外債券 1 円	11 円	13 円
国内債券 ▲5 円	---	▲5 円
海外REIT 15 円	45 円	60 円
国内REIT 96 円	---	96 円
海外株式 ▲13 円	57 円	44 円
国内株式 ▲33 円	---	▲33 円
その他要因 ---	---	▲16 円
分配金 ---	---	0 円

設定・運用：

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

商号等

大和アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

加入協会

国内債券 組入上位銘柄			合計3.0%
銘柄名	利率(%)	償還日	比率
26 30年国債	2.4	2037/03/20	0.3%
94 20年国債	2.1	2027/03/20	0.3%
30 30年国債	2.3	2039/03/20	0.3%
22 30年国債	2.5	2036/03/20	0.3%
110 20年国債	2.1	2029/03/20	0.3%
32 30年国債	2.3	2040/03/20	0.3%
101 20年国債	2.4	2028/03/20	0.3%
28 30年国債	2.5	2038/03/20	0.3%
86 20年国債	2.3	2026/03/20	0.3%
116 20年国債	2.2	2030/03/20	0.3%

【国内債券】
(債券市況)

国内債券市場では、金利は上昇しました。日銀高官による発言が利上げに前向きと捉えられたことや、2025年度補正予算案を巡り高市政権の財政拡大路線が意識されたことから、国内金利は上昇しました。

(今後の見通し)

国内の経済・物価は、おおむね日銀の想定通りに推移すると見込んでおり、緩やかなペースでの利上げが実施されるとみています。利上げの実施とともに長期金利は徐々に上昇していくと予想します。

国内株式 組入上位銘柄			合計11.8%
銘柄名	東証33業種名	国・地域名	比率
ソニーグループ	電気機器	日本	2.1%
住友電工	非鉄金属	日本	1.5%
日立	電気機器	日本	1.5%
アドバンテスト	電気機器	日本	1.3%
任天堂	その他製品	日本	1.2%
東京エレクトロン	電気機器	日本	0.9%
トヨタ自動車	輸送用機器	日本	0.9%
村田製作所	電気機器	日本	0.9%
リクルートホールディングス	サービス業	日本	0.8%
三井不動産	不動産業	日本	0.8%

【国内株式】
(株式市況)

国内株式市場は上昇しました。月初は過熱感の強まりからAI・半導体関連株に利益確定とみられる売りが広がり、やや軟調に推移しました。月半ばにかけては、米政府機関閉鎖解除への期待や円安進行を背景に堅調に推移しました。その後、日中関係の悪化や国内金利の上昇が株価の重荷となった局面もありましたが、米エヌビディアの好決算や米利下げ期待の高まりを受けて、月末にかけて再び上昇基調で推移しました。

(今後の見通し)

米関税政策の影響による業績下振れリスクが後退する中、来期業績への期待が高まっています。こうした予想EPSの上方修正により、バリュエーションの割高感は薄まりつつあります。また、東証の要請などを背景に企業の資本効率向上への意識が高まり、かつてない規模で株主還元が進んでいます。自社株買いの件数や規模の拡大による需給改善は、国内株式市場の堅調な展開を後押しすると見込めます。

※比率は、純資産総額に対するものです。

Daiwa Asset Management

海外債券 組入上位銘柄			合計2.7%
銘柄名	利率(%)	償還日	比率
AUSTRALIAN GOVERNMENT BOND	4.5	2033/04/21	0.4%
SPANISH GOVERNMENT BOND	2.9	2046/10/31	0.4%
United States Treasury Note/Bond	1.125	2040/08/15	0.4%
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND	3.375	2033/05/15	0.3%
United States Treasury Note/Bond	0.875	2030/11/15	0.3%
UNITED KINGDOM GILT	4.25	2034/07/31	0.2%
SPANISH GOVERNMENT BOND	1.2	2040/10/31	0.2%
EUROPEAN INVESTMENT BANK	2.75	2030/07/30	0.2%
United Kingdom Gilt	0.25	2031/07/31	0.2%
INTL. FIN. CORP.	1.25	2031/02/06	0.2%

【海外債券】
(債券市況)

海外債券市場では、金利はまちまちな動きとなりました。米国では、FRB（米国連邦準備制度理事会）高官から12月の利下げに慎重な発言が相次ぎ、金利は上昇する場面もありましたが、ニューヨーク連銀総裁が近いうちに利下げする余地があるとの見方を示したことで12月の利下げ観測が高まり、金利は低下に転じました。一方、利下げ打ち止め感が強まった豪州で金利が上昇するなど、金融・財政政策の方針の違いから各国の金利はまちまちな動きとなりました。

(今後の見通し)

米国においては、政府閉鎖の影響によって当面は経済指標にノイズが生じやすいため、金利は方向感に欠ける展開を見込みます。ただし、中期的には関税などによる景気減速や更なる利下げに焦点が当たると考えることから、金利は低下方向を想定します。その他の国の金利はおおむね米国に連れる展開を予想しますが、追加利下げの有無などによって差異が生じるとみています。

海外株式 組入上位銘柄			合計11.0%
銘柄名	業種名	国・地域名	比率
NVIDIA CORP	情報技術	アメリカ	1.9%
ALPHABET INC-CL C	コミュニケーション・サービス	アメリカ	1.7%
APPLE INC	情報技術	アメリカ	1.6%
MICROSOFT CORP	情報技術	アメリカ	1.5%
BROADCOM INC	情報技術	アメリカ	1.1%
AMAZON.COM INC	一般消費財・サービス	アメリカ	1.0%
META PLATFORMS INC CLASS A	コミュニケーション・サービス	アメリカ	0.6%
JPMORGAN CHASE & CO	金融	アメリカ	0.6%
ELI LILLY & CO	ヘルスケア	アメリカ	0.5%
TESLA INC	一般消費財・サービス	アメリカ	0.5%

※業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準（GICS）によるものです。

※海外株式の国・地域名については、原則としてMSCI Inc.が提供するリスク所在国・地域に基づいて表示しています。

【海外株式】
(株式市況)

欧米株は、月間でほぼ横ばいでした。米利下げ期待の後退や「AIバブル論」への警戒感からAI・半導体関連株が下落し、さらに財政再建を巡るフランスの政治的混乱も重なり、上中旬は軟調に推移しました。しかし、米エヌビディアの好決算を受けてAI・半導体関連株に買いが戻ったほか、FRB高官の発言を受けた米利下げ期待の高まりを好感し、下旬には欧米株とも下落幅を縮小しました。

(今後の見通し)

米国株は、AI関連分野の広がりを追い風とした業績拡大への期待や、FRBの利下げによる景気下支え効果から、堅調な推移を想定します。ただし、米関税政策で物価が予想以上に上昇すれば、利下げ期待が後退する可能性には留意が必要です。欧州株は、企業業績や景気など、成長面での力強い株高材料には欠けるものの、PER面での割高感が乏しいことから、緩やかな上昇継続を見込みます。

※ 後述の当資料のお取り扱いにおけるご注意をよくお読みください。

国内リート 組入上位銘柄			合計10.8%
投資法人名	種別名	国・地域名	比率
日本ビルファンド	オフィス不動産投資信託	日本	1.4%
野村不動産マスターF	各種不動産投資信託	日本	1.3%
日本都市ファンド投資法人	店舗用不動産投資信託	日本	1.2%
GLP投資法人	工業用不動産投資信託	日本	1.2%
KDX不動産投資法人	各種不動産投資信託	日本	1.2%
日本プロロジスリート	工業用不動産投資信託	日本	1.1%
ジャパンリアルエステイト	オフィス不動産投資信託	日本	1.1%
大和ハウスリート投資法人	各種不動産投資信託	日本	0.9%
インヴィンシブル投資法人	ホテル・リゾート不動産投資信託	日本	0.7%
日本プライムリアルティ	オフィス不動産投資信託	日本	0.7%

※種別名について、原則として国内リートはS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準(GICS)に基づき分類しています。

※用途名について、原則として海外リートはS&P Global Property Indexに基づき分類しています。

※比率は、純資産総額に対するものです。

海外リート 組入上位銘柄			合計7.3%
銘柄名	用途名	国・地域名	比率
WELLTOWER INC	ヘルスケア	アメリカ	1.6%
GOODMAN GROUP	産業用	オーストラリア	1.3%
DIGITAL REALTY TRUST INC	データセンター	アメリカ	0.9%
PROLOGIS INC	産業用	アメリカ	0.7%
CAPITALAND INTEGRATED COMMER	ダイバーシファイド	シンガポール	0.5%
SCENTRE GROUP	小売	オーストラリア	0.5%
CROWN CASTLE INC	その他	アメリカ	0.5%
EXTRA SPACE STORAGE INC	倉庫	アメリカ	0.5%
KLEPIERRE	小売	フランス	0.5%
STOCKLAND	ダイバーシファイド	オーストラリア	0.4%

【国内REIT（リート）】

（リート市況）

J-REIT市場は11月も上昇し、月次ベースでは8カ月連続で上昇しました。東証REIT指数は終値ベースで約3年ぶりに2,000を回復しました。不動産賃貸市況の好調さが上昇の背景です。特にオフィスや賃貸住宅を中心にJ-REITの賃貸事業利益増加への期待は大きく、物件売却益の活用もあり、金利コスト増加による悪影響はあるものの、J-REIT市場全体として増配が続くことを想定しています。

（今後の見通し）

需給面では、J-REIT市場上昇を受けて再開した公募増資の発表が今後も続くとみえています（11月は3件発表）。J-REITの公募増資は物件取得が同時に行われ、一口当たり利益が増加するケースが多い点はポジティブです。一方で新投資口の発行は需給面ではマイナスのため、一時的に弱含む展開も想定しています。中長期的には事業環境は良好で、増配の継続から緩やかな上昇を期待しています。

【為替】

（為替相場）

為替市場では、投資対象通貨は対円で上昇しました。経済成長を重視する高市政権の姿勢が日銀の早期利上げ観測の後退につながったほか、大型補正予算による財政悪化への懸念が強まったことで、月中旬にかけて円安が進行しました。月下旬には、米国の利下げ観測と日本の利上げ観測が再燃し、また日本の円買い為替介入への警戒感も高まりましたが、円高の進行は小幅にとどまりました。

（今後の見通し）

日銀の金融政策は引き続き利上げ方向である一方、米国は利下げ方向であるため、日米の金利差縮小に連れて、米ドルは対円で緩やかに弱含む展開を見込みます。ただし、日本の利上げは円安対策の側面もあるため、日米金利差が示すほどには円高が進みにくいとみえています。その他の通貨においては、おおむね米ドル円に連れた動きを見込みます。

【海外REIT（リート）】

（リート市況）

海外REIT市場は上昇しました。国・地域別に見ると、長期金利が低下傾向で推移した米国が上昇しました。一方、決算が予想を下振れた銘柄を中心に香港や、金利上昇により豪州が下落しました。米国では、高所得層の堅調な消費動向から、ホテル/リゾートやショッピングモールなどの裁量消費セクターが上昇しました。一方、AI関連企業の収益性への懸念が高まる中、データセンターは下落しました。

（今後の見通し）

建築コストの高止まりや高金利環境の下で物件供給が抑制されており、稼働率および賃料の上昇要因となっています。大手上場REITは良質な物件を多く保有しており、景気が減速する中でも安定した需要と着実な賃料上昇が期待されるため、全体としてポジティブな見通しを持っています。一方で、需要面のリスク要因として、労働市場の悪化に注意が必要であると考えています。

※P2、P3のコメントについては、現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

Daiwa Asset Management

※ 後述の当資料のお取り扱いにおけるご注意をよくお読みください。

《ファンドの目的・特色》

ファンドの目的

- ・内外の債券、株式およびリート（不動産投資信託）に投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。

ファンドの特色

- ・内外の債券、株式およびリートに投資します。
- ・海外の債券への投資にあたっては、ソブリン債等に投資します。
- ・わが国の債券への投資にあたっては、国債に投資します。
- ・内外の株式への投資にあたっては、中長期的に企業価値の向上が期待される銘柄に投資します。
- ・内外のリートへの投資にあたっては、個別銘柄の投資価値を分析して、配当利回り、期待される成長性、割安度などを勘案し投資銘柄を選定します。

《投資リスク》

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。**基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

価格変動リスク・信用リスク 株価の変動	組入資産の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。 株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。 発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。
価格変動リスク・信用リスク 公社債の価格変動	組入資産の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。 公社債の価格は、一般に金利が低下した場合には上昇し、金利が上昇した場合には下落します。また、公社債の価格は、発行体の信用状況によっても変動します。特に、発行体が債務不履行を発生させた場合、またはその可能性が予想される場合には、公社債の価格は下落します。
価格変動リスク・信用リスク リートの価格変動	組入資産の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。 リートの価格は、不動産市況の変動、リートの収益や財務内容の変動、リートに関する法制度の変更等の影響を受けます。
為替変動リスク	外貨建資産については、資産自体の価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。
カントリー・リスク	投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、方針に沿った運用が困難となることがあります。
その他	解約資金を手当てするため組入証券を売却する際、市場規模や市場動向によっては市場実勢を押下げ、当初期待される価格で売却できないこともあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付けが中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

《ファンドの費用》

投資者が直接的に負担する費用			
		料率等	費用の内容
購入時手数料		販売会社が別に定める率 〈上限〉 <u>3.3% (税抜3.0%)</u>	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額		ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用			
		料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)		(分配型) : <u>年率1.4025%</u> <u>(税抜1.275%)</u> (成長型) : <u>年率1.485%</u> <u>(税抜1.35%)</u>	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎日計上され日々の基準価額に反映されます。
配分 (税抜) (注1)	委託会社	販売会社および受託会社への配分を除いた額	ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価です。
	販売会社		運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価です。
		各販売会社ごとに、次の額を当該各販売会社にかかる各ファンドごとの取扱純資産総額により按分して得た額	
		当該各販売会社にかかる「6資産バランスファンド（分配型）」および「6資産バランスファンド（成長型）」の取扱純資産総額の合計額に次の率を乗じて得た額	
		200億円以下の部分	年率0.60%
		200億円超500億円以下の部分	年率0.70%
		500億円超1,000億円以下の部分	年率0.75%
	1,000億円超2,000億円以下の部分	年率0.80%	
	2,000億円超の部分	年率0.85%	
	受託会社	年率0.05%	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。
その他の費用・手数料	(注2)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。	

(注1)「運用管理費用の配分」には、別途消費税率を乗じた額がかかります。

(注2)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。

※運用管理費用の信託財産からの支払いは、毎計算期末または信託終了時に行なわれます。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。また、上場不動産投資信託は市場価格により取引されており、費用を表示することができません。

購入単位	最低単位を 1 円単位または 1 口単位として販売会社が定める単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額（1 万円当たり）
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払い下さい。
換金単位	最低単位を 1 口単位として販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額（1 万円当たり）
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して 5 営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後 3 時 30 分まで（販売会社所定の事務手続きが完了したもの） なお、販売会社によっては異なる場合がありますので、くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の換金申込には制限があります。
購入・換金申込受付 の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、購入、換金の申込みの受け付けを中止することがあります。
繰上償還	次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、 信託契約を解約し、信託を終了させること（繰上償還）ができます。 ・受益権の口数が 30 億口を下ることとなった場合 ・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
収益分配	6 資産バランスファンド（成長型）：年 2 回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。 （注）当ファンドには、「分配金再投資コース」と「分配金支払いコース」があります。なお、お取扱い可能なコースおよびコース名については異なる場合がありますので、販売会社にお問合わせ下さい。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に NISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。 当ファンドは、NISA の対象ではありません。 ※税法が改正された場合等には変更される場合があります。

《当資料のお取り扱いにおけるご注意》

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメントにより作成されたものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認ください。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
- 分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ

▶ **大和アセットマネジメント** フリーダイヤル 0120-106212（営業日の9:00～17:00）

当社ホームページ

▶ <https://www.daiwa-am.co.jp/>

6 資産バランスファンド（成長型）（愛称：ダブルウイング）

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
株式会社三井住友銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第54号	○	○		○

上記の販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によって、新規のご購入の取扱いを行っていない場合や、お申込み方法・条件等が異なります。くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。